

～ 繁殖成績を改善させる発情発見 ～
初回授精を早めて再発情を見逃さない

繁殖成績を向上させることで空胎日数が短縮され、安定した分娩頭数を確保でき、乳量や個体販売などの生産性が増加する、という話をこれまで紹介してきました。前回の最後に繁殖成績の目標として妊娠率 20% を目指そうと締めくくりましたが、今回は繁殖成績を向上させる（妊娠率 20% 以上）ための発情発見について考えていきたいと思います。

妊娠率にインパクトを与える BEST 3

① 初回授精 DIM

－DIM 50 を過ぎた牛は速やかに授精を開始する

② 再授精

－授精した牛の 3 頭中 2 頭は受胎していない！正常周期（21 日）での再発情を見逃さない

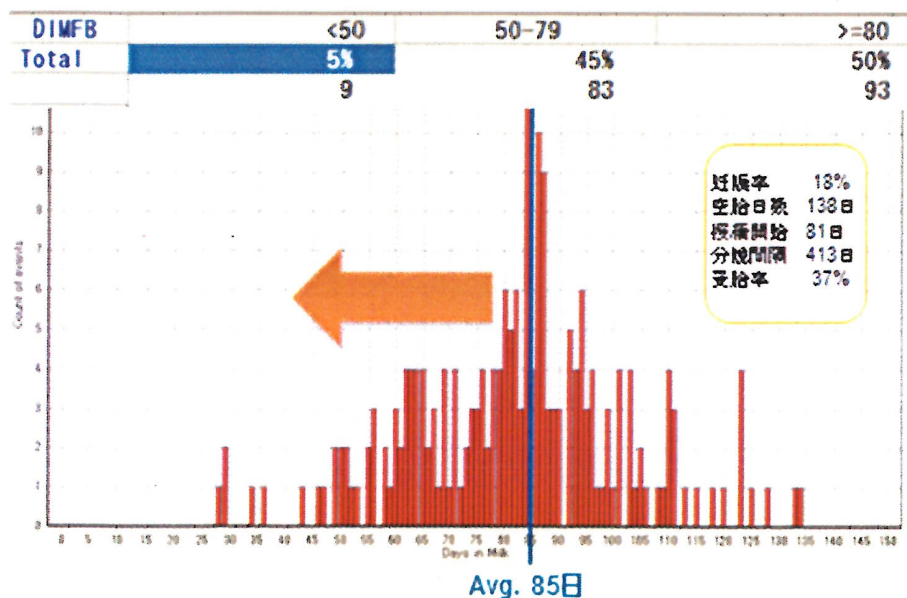
③ 受胎率

－正しいタイミングで授精する。受胎率を分析する（月ごと／授精方法／授精師……）

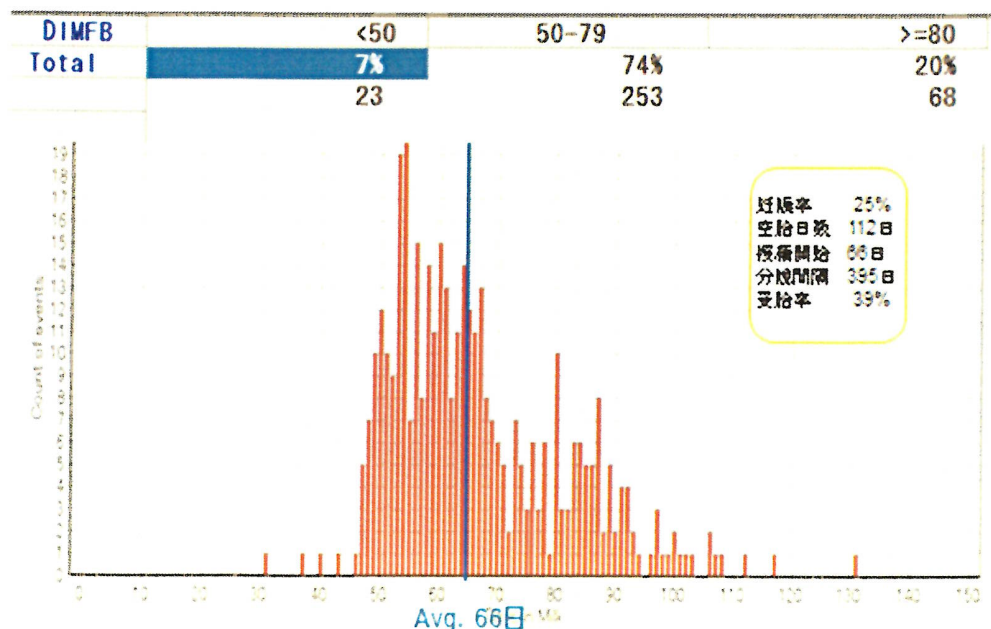
繁殖成績を向上させるために発情をたくさん見つけましょう（発情発見率を高めよう）とよく言われますが、具体的にどうすれば発情発見が増えるのか。その答えが初回授精を早めることと一度授精した牛の再発情を見逃さずに再授精に持っていくことです。

以下に初回授精の発見頻度の異なる 2 牧場を比較してみます。

初回授精DIMの分布



こちらの牧場は平均初回授精 DIM が 85 日で早く授精している牛もいれば遅い場合だと 100 日を超えて初回授精している牛も見受けられ、半分以上の牛が初回授精が 80 日以降になってます。



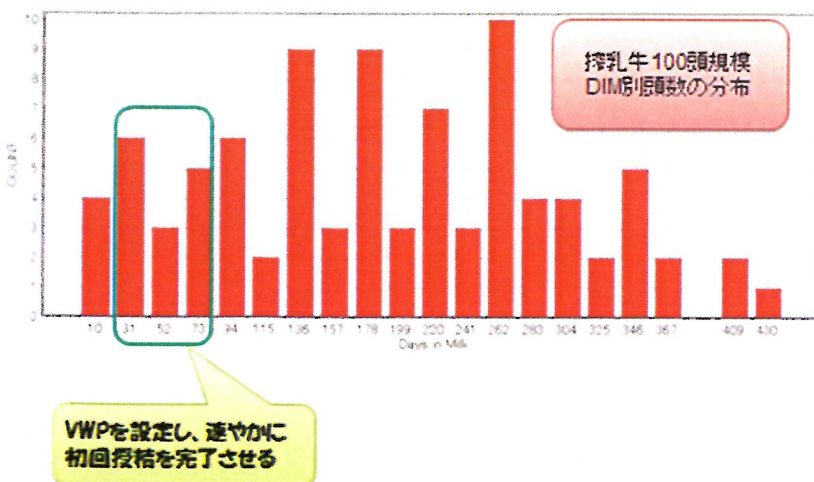
一方こちらの牧場は平均初回授精 DIM が 66 日で授精の遅れている牛の割合は少なく、80 日を超えて初回授精する牛は 20% しかいません。

これらの 2 牧場では受胎率にはほとんど差が見られません (37% vs 39%) が、妊娠率 (18% vs 25%)、空胎日数 (138 日 vs 112 日) などには大きな差が認められるのがわかります。

初回授精は分娩後 50 日を過ぎたら速やかに授精をするように推奨されています (自主的待機期間: VWP 50)。この 50 日という数字はよほど乳量が高かったり (個体乳量 12,000 kg 以上)、発情発見精度が高く受胎率も高かったり (45% 以上)、するわけではない限り、遅らせるべきではありません。分娩後 50 日を過ぎて発情周期 21 日 + α の数字となる DIM 80 までに最大の目標としてすべての牛を授精できるようにしなければなりません。

これにはどのくらいの労力が必要なのでしょう？それは分娩後 30 日くらいから 80 日くらいまでの牛を

初回発情 注意する牛は何頭いる？



毎日発情かどうかチェックすれば良くて、一度発情を発見してしまえば毎日注意しなければならない牛はどんどん減っていきます。つまり、左図にある通り、100 頭規模の農場で 10~20 頭、すなわち 10~20% の牛に発情が来ていないかどうかを観察する時間を取れば初回授精を早められるわけです。多くの農場で「ながら発情発見」(他の作業をしながら牛が騒いでいたら発情に気づく) という繁殖管理法が見受けられますが、特に初回授精が遅れがちな農場ではまずは毎日発情を見つけなければいけない牛にマーキングし、5 分でも 10 分でも発情を観察する時間を取ってみたいかがでしょう。